

令和6年度第1回香南市総合教育会議

1. 開催日時 令和6年8月15日（金） 午後1時30分～

2. 開催場所 本庁舎 6階 会議室604・605

3. 議題

(1) ジェンダーレス制服について

(2) 公共施設等マネジメントについて

(3) 香南市学校等の規模適正化等について

(4) 食育について

- ・農業公社と連携した特別栽培米（減農薬米）の学校給食への提供について
- ・給食の残食に対する取組について

(5) その他

4. 出席委員

教育委員	百田 久範
教育委員	中元 啓恵
教育委員	森本 美穂
教育委員	亀川 孝志
教育長	三木 守
香南市長	濱田 豪太

5. 説明のため出席した者の職氏名

教育次長	門脇佐代子
学校教育課長	小松 昌司
生涯学習課長	山崎 正博
こども課長	猪原 加江

6. 事務局職員の職氏名

総務課長	北村 浩司
------	-------

7. 傍聴者 6名

8. 議事の経過の概要

次のとおり

○北村総務課長

ただ今より、令和6年度第1回香南市総合教育会議を始めさせていただきます。私は進行を務めます総務課長の北村と申します。どうぞよろしく願いいたします。会に先立ちまして、市長の方よりご挨拶を申し上げます。

○濱田市長

皆様、改めましてこんにちは。教育委員の皆様には第1回の香南市総合教育会議ということで、8月15日の大変お忙しい中お集まりいただきまして心より感謝を申し上げたいと思います。また、第1回目がこのように遅くなりましたことを、個人的にはもう少し早い段階でもう少し回数をとっておりましたが、なかなか私の日程も取れず遅くなりましたことをお詫び申し上げたいと思います。

では、まず第一に、今日話をさせていただきたいのが、大変喜ばしい話題であります。ご承知のとおりパリオリンピックで櫻井つぐみ選手が金メダルを取りました。櫻井選手と言えば、野市小、野市中とこの香南市で育ち、このようなまさに世界一の選手が我々香南市から排出されたということは本当に誇りに思いますし、何より香南市の子どもたちの新たな目標といえますか、自信につながるのではないかと思います。今後櫻井選手につきましては、これからですね、まだ、こちらに戻ってこれるような状態ではないというふうに聞いておりますので、それなりにしっかりと香南市としても、お祝い等をできればという風に考えております。

そして、今回の総合教育会議、様々なテーマで議題を上げさせていただきました。昨年からの引き継ぎの事もありますし、そしてまた新たに取り上げる問題もあります。それぞれにつきまして、忌憚ないご意見をちょうだいできればと思います。

ご承知のとおり現在、物価高が続いております。こういった社会情勢の劇的な変化っていうものが、子どもたちに与える影響というのがどのようなものになるのか特に経済的に困窮し、そしてまた苦しい状況のご家庭で、これ全てのご家庭がそうだと思いますが、そのしわ寄せが子どもたちに極力行かないように、そして、このような異常気象の中におきまして、熱中症の対策、暑い中様々なことを子どもたちもされていることに対しましても、我々も教委と市長部局が一緒になって取り組んでいかなければならないというふうに承知しております。そういった意味におきまして、本当に今回の第1回総合教育会議が実り多きものになるように、ご協力のほどお願いを申し上げまして私からのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく願い申し上げます。

○北村総務課長

それでは、順次進めてまいります。まず一つ目の議事につきましてジェンダー制服についてということで説明をお願いいたします。学校教育課長、よろしく願いします。

○小松学校教育課長

はい、ジェンダー制服については香南市では中学校の方で検討しているところで、まず先行して進んでいるのは香我美中学校で、令和7年度に追加の制服でブレザー、スラックス、スカートというものを現在の制服よりも安価ということもありますし、ブレザーがボタンも右、左と入れ違えてどちらでも使えるというようなこともあって、追加制服なので、今までの制服も着ることができる

ということで、ネクタイ、リボンをどんな風にするのかアンケートを12月頃までにとって、その後、6年生の体験入学が12月にあるので、そこでお披露目し、1月には注文をとって7年度にスタートしたい計画で進めています。

野市中学校は生徒会主体で考えているところで、同じような制服、ブレザー等の形を提案し、アンケートもとって進めています。同じように赤岡中、夜須中も検討しているという状況です。

○北村総務課長

ありがとうございました。

そしたら、そのことにつきまして委員の皆様からご意見ご質問等いただいたらと思いますが、どなたかいかがでしょうか。

○百田委員

香我美中学校は前向きに、金額もこれから最終的に決まる。小学校も夜須以外今は私服になっている。以前は香我美小学校も標準服で皆一緒だったが、こういった流れで。それに加えてポロシャツを子どもたちがいつでも着れるようになって、黒色とか下着の色も見えにくい配慮にもなったが、先程市長が言われたように経済的な余裕があるかないか、全てそろえてくれるのは有り難いが、かなりの金額になる。

○森本委員

このこと自体には賛成というか、新しい時代で制服も古いものから変わるということで、まったくいいんですけど、生徒さんたちが主体で決めているというところに。中学生ですし、制服をこれにするとか、やるかどうかそういったことは子どもたちが決めて、それがいいと思うんですけど、スケジュール感、その辺りを学校がどれくらいを子どもさんに任せるのか、それがどうなんだろうという風に思いました。さっきの経済的な理由とおっしゃいましたが、いつ頃頼むのか中途半端な時期だと古い制服を買った方が次の年にまた買い足すとか、その辺が気になりました。

○小松学校教育課長

先程のスケジュール感では、香我美中学校は学校運営協議会、PTAと相談しながら進めており、来年度のスタートに合わせたいとのこと。全ての人が買うわけではなく、追加購入なのでそれで進めていきたいとしています。

野市中学校は、今年度は話し合いを生徒会中心にしています。その課題を生徒会として引き継いでいくというスタンスで、急に進めるというよりは、学校運営協議会、PTAとかにも相談し進めていっているということです。

○濱田市長

はい、まずこのジェンダー制服ではなく、ジェンダーレス制服ですので。そこは、ジェンダーは性差のことですので、性差を無くした制服ということで、資料の言葉が間違ってますので訂正したいと思います。

それとですね本当に進んでると思いますが、私としては私の感覚では遅いなというふうに正直思ってます。7年度からは香南市内全部、少なくとも中学校でできたらなど、私もそもそも去年の総

合教育会議から今年度くらいの勢いでお話してますのでやってもらいたいなど。

様々、今回のオリンピックでもですね、性差、ジェンダーについて様々ちょっとこれ、議論をいろんな立場、いろんな視点であると思いますが、そういう中において、もう現実というのは、我々よりかはるか先、まず現状よりはるか先に、進みつつある中において、子どもたちが特に、生徒会中心に話していただくっていうのもいいんですけど、逆に言うと、生徒会を中心に話していくと、すごく子どもたち自身に、迷わしてしまうんじゃないか、迷わすというか考えることは大事なんだろうけど、そこでこう、かえって混乱というか、いろんな問題が起こるんじゃないかなと私は個人的に心配してますので、できれば何て言うかももう少し教育委員会も促してあげるといふか、そのジェンダーの中で、性的マイノリティの方たちだけじゃなく、例えば一つの例で言うと、野市中学校が今現状で男子生徒の制服は半袖があるんですけど、女子の制服は半袖がないとかですね、それで、子どもたちから暑いと。男子だけ半袖でいいなという話で、体操服で通う時がラッキーだという子どもたちの声なんかもあるわけで、そういうところを考えると、いわゆる性的マイノリティの方々へのという、そういう視点も一つ、そもそも物理的に具体的に例えば短パンを導入するとかですね、この気象状況を特に夏場の状況の中で、現状の、確かに今の野市中に通う子を見ますから、なかでも夏場でも長袖でのジャージを着て通う子なんかよく見ますし、日焼けをしたくないとかいろんな理由はあると思いますが、選択肢をより増やして行ってあげたいというのは、一つこのジェンダーレス制服というのがいいきっかけになると思いますので、それについて早めてほしいなど。もう少し具体の、現に困りごとじゃないですが、そういうこともより学校側に拾い上げて子どもたちに上手に促すというか上手に説明できるようにしてもらえたらなと思いますので、引き続き前に進むように、話してもらいたいと思います。

○北村総務課長

他にご意見等ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

そしたら次の議題に移ります。

公共施設等マネジメントについての説明をお願いします。

○山崎生涯学習課長

まず委員の皆様には、この資料は事前にお渡しして、事前にお話もさせていただいたこともございます。そのことも踏まえて、市長の意見としての議題として進めていただきたいと思います。

すみません、まずですね、香南市の実態として今どのように事業を進めているかということも踏まえて資料をご提示させていただいております。事前にお配りしている資料の中に、1番の公共施設等の適正配置に関する方針、これは令和6年5月に一部訂正しております。それと2番目に概要版がありまして、3番目が香南市の公共施設のあり方について、市民説明会、これが4月22日夜須公民館をスタートし4月26日まで、各公民館があったという状況の報告。それと4番が、この内容を踏まえて、説明会でご意見いただいた内容を報告書という形で、まとめた内容がございます。これもホームページに載せて、皆さんがいつでも見えるような状況になっていると。それと、5番目からは施設の一覧となりまして、ご要望ありました、各施設に分かりやすい資料があったらいいということで、赤岡、香我美、野市、夜須、吉川という形の資料で、資料の一番のところに記載させていただいてる内容でいきますと6から10番が各個別の資料、11番が生涯学習管轄の施設ということでご報告さ

させていただきます。全部で69施設ございます。

この中で、この説明会の中でも、契約管財課の別役補佐の方からも説明ありましたが、A B C Dの自己評価というものがございます。その中でAとDだから、Cだからという話よりも、まずは耐用年数が経ったものについて、それと利用率がどうだか、という話も踏まえて、なかなか古いもので利用されてない施設につきましては、今後改修も含めてどうするかということも地域の方々と話を進めながら、最悪の話でいきますと、それはそれを取り壊しするのか、統合していくのかを踏まえて地域へ説明していくということになっております。

生涯学習課の方針につきまして、まず報告をするのが、まず8月23日に、夜須地区のまちづくり協議会の方々へ、事前説明会をします。これは夜須地域の中で、集会所施設が全部で17施設ございます。その内容について、個別で地域を回らせさせていただいて、地域個別単位でお話をさせていただくことの了解いただきまして、その後に日を決めてという形でスタートします。本来ならば、最初吉川を実施する予定でしたが、まちづくり協議会の日程が合わなくて、9月上旬のまちづくり協議会で説明をさせていただいて、その後に地域を回るというふうに決めさせていただいております。

ですが、実際の話として、この内容見て、財政の問題も記載させていただいております。それと企画財政課が野市の場合は、企画財政課長から1時間ぐらい話があったのかな、説明があって、今の状況報告したときに、なかなか新しい施設をどんどん作っていく状況ではないと、難しい状況に至ったという話もありましたので、あまりこう前向きな話ばかりして、先送りするのは難しいかなというふうに思っております。ですから、話し方っていうのは、市民と向き合いながら、いつのタイミングかという話も、きっちり話をさせていただきたいと思っております。

なぜならば、ここには人口動態の話が載っております。今から2050年には2万4千人ぐらいの数値になるということが、実際、これはもう決まっております。それと日本全国でいきますと8,900万という数字もこれも実際まだ子どもたちが生まれてない状況下では、そのゴールが決まっている中で、公共施設をどういうふうに位置付けていって、どういうふうな立ち位置として構えていくかということも踏まえて、各地域にちょっと腹を割って話をしていきたいというふうに思っております。

生涯学習課所管の施設が、今回の適正化対象施設が300以上ございますけれども、市民の利用する場所として一番直結している施設ですので、本当に何度も話をし、方向性を近いうちに決めて、今から26年後になりますか、2050年がゴール。その時期にはどうなっていくのかということ想像させながら、私たちも想像しながらちょっと話をしていきたいと思っております。

すいません、個別の説明につきましては、議員の方もおられますけれども、今までも説明をしておりますし、教育委員会の中でも、事前に説明も皆さんにしておりますので、生涯学習課の進め方としては以上というふうになります。

よろしいでしょうか。

○濱田市長

では今回、総合教育会議の場で、公共施設等のマネジメントについてお話をさせていただきましたのは、やはり教育委員会の中で、先ほど山崎課長からもお話ありました、それぞれ教育委員の皆様にはですね、ご説明、そしてまた進捗等も含めて、個別にはご説明をしておるというふうに聞いておりますし、その中でやはり、この施設の数であったり、それぞれ地域に、この香南市内に300を超える施設がある。そして、かつてはですね、やはりそれぞれの地域に、地域によって地域でその施設と

というのがやっぱり必要であり、そしてまた、使われる、そういった中で、地域になくってはならないものであったし、この現状、今の香南市があるのはそういった施設を使って、地域がそれぞれに発展してきたおかげであるということは承知しております。そしてまた大切であるということは、よく理解をしておるつもりであります。

しかし先ほど生涯学習課長からもお話ありました、我々、今財政、これからのですね人口減少社会っていうものを一定、念頭に置いて、この香南市というものが、持続可能な都市として、市として残っていく、そのためにはですね、やはりこれまでも続けていたものをそのまま持ち続けていくというのは非常に厳しいということが、もう差し迫った課題であります。

特にこの総合教育会議でこれを取り上げるということは、そのしわ寄せというのが誰に最も影響があるかということと子どもたちであります。子どもたちが、10年後20年後の青年になり、大人になっていく中において、その時に、より、その時はある程度一定想定した中で、我々が子どもたちに何を残していくか、何を残せるのかということ、今先ほどの生涯学習課長のお話あったとおり、それぞれ所管する課が地域に入り、地域の方々とともに、お話をさしていただいています。それはですね、やはり大きな目的という意味においては、子どもたちにしっかりと受け継いでもらえる施設のあり方、公共施設のあり方とそしてまた、今の今、そしてまたこれから10年20年先の、香南市がどのような、どうなっているのか、どういう未来であるのかということなんかを踏まえた話をしなければならぬ。それを今までなかなか、こういう具体的な形で、公共施設等のマネジメントという形として取り組んできてなかったのが、今回、改めて見つめ直すというか、もう国からの総合公共施設総合管理計画ってのがそもそもあった上で、それを行って見た中でやっぱり全国の中でも、同規模自治体では我々の持つておる公共施設が多いであったり、そしてまたやはり皆様も香南市内にお住まいの中においてですね、明らかにかつては使っていた施設であっても今現在、残念ながら使われてない施設等もたくさんあると思います。そしてまた、かつて必要であった、しかし、今はそのもの自体が、こう一定役割を終えておる。そしてまたさらには、今、必要であるものだっていうのも、逆にはあると思いますので、そういったことをより早めに、今我々が様々まだ対処できるであろう、財政力であったり、マンパワーを持ち合わせてる今だからこそ、それを話す絶好の機会ではないかと思ひまして、この公共施設等マネジメントを始めましたので、これについて個々に委員さんは説明を受け、それぞれのご意見あると思いますし、それを今この場でこの各施設について、個別にどうこう言う場ではないことも承知しておりますが、こういったことを我々の意思として今始めておりますので、教育委員の皆様と何て言いますか、こう、方向性を一緒にできればなと思ひてあえて取り上げさせていただきましたので、ご理解いただきたいですし、教育委員さんは教育委員さんの立場として、いろんな場でご助言、そしてまたご意見等ちょうだいできればと思ひますので、よろしく願ひします。私から以上です。

○北村総務課長

そしたら、それぞれ委員さんの方から、何かございましたら、いただきたいと思ひます。

○亀川委員

市長がおっしゃること、非常に将来の子どもたちに財政的な面で非常に苦しい思いをさせたくないというのも全く同感でして、やっぱりこれだけ多くの施設があるのをやっぱりこのままずっとというのはとても無理だろうということで、思い切って、できるだけ早くっていうふうな、そういうふうな

気持ちは全く賛成です。ただ気になるのが方針の3番の中にある、住民サービスや地域のコミュニティを維持するように取り組めますというところで、まちづくり協議会だとか、そういったところに向いてっていうことで、取り組んでいくということなんですけども、やっぱりこれも南海大地震でどうなるかというようにところなんかやっぱり関連してきますし、それから次の議題になっている学校等規模適正化とも合わせてですね、やっぱり震災が起きた後のまちづくりをどうするかっていう大きなテーマとどうしても結びついてくるので、これ単独でどうしますかっていう話よりは、やっぱりあの事前復興っていうような、そういった視点も入れて、ある程度個別的にやるよりは、全庁的なシェアで、やっぱり事前復興と絡めて関連させてやっていくっていう、そこら辺のマネジメントも必要なんじゃないかというふうに考えています。

○濱田市長

はい、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

本当におっしゃるとおりでありますし今の段階で令和8年度からですね、香南市事前復興まちづくりのですね、計画を進めていく、来年度準備をする予定で、その準備の準備というか、今ちょうどそのことについて、それをうまくやはりまちづくりと、やはりこの公共施設マネジメントっていう切っても切れないというか、当然同じことですから、やっぱそこは何て言いますか、リンクさしてというか、それぞれの今出しているそしてまた進めておる計画の上にとというか、大きな視点として、事前復興まちづくりのまちづくりの事前復興計画というのは、念頭に置いて進めるようには考えておりますので、特に本日の5時に何もなければ、今回の南海トラフの注意というのは、一定終了するというふうに聞いておりますが、この1週間もう先週のちょうど4時3分ですね、その時から様々なことを、この1週間の間にも我々教育委員会、特に教育委員会含めてですね、様々な決断に迫られ、それは学校教育課もそうですし生涯学習課もこども課も、全ての課が教育長を先頭に、大きな決断を迫られ、そしてまた、決断してきました。もう我々はそういった段階に一ステージ上というか、一つフェーズを上げて、取り組まなければならないということは、たとえ今回の注意が、今日の5時に解除されたとしても、それを念頭に、もう、いや応なく置いて、これからの様々な事業、施策には反映していかなければならないというのを今、教育長、副市長とは一緒に協議をしまして、それをちゃんと進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

どうぞ。

○百田委員

まあ生涯学習、教育委員会関係ですけど、例えば公民館は、公民館運営審議会がありますし、スポーツだったらスポーツ審議会がありますので、またそこら辺のデータを取っていただいてどういう傾向で、スポーツ施設は大体、ほとんど毎日利用があります。ただ公民館になれば、市長もご存じのとおり、東川公民館より奥に二つありますし、もう舞川といえば公民館長も高齢になって、山北まで出られる状態で、ますます過疎化が進む。そういった中での公共施設マネジメントは難しい面があります。まちづくり協議会と公民館、生涯とのコミュニケーションをとりながら、ますます進めてい

って欲しいなと思います。

今年の4月に、野市東コミュニティも開設しましたが、利用率はどうかかなと、なんかちょっとあんまり増えないような気がしますので、利用推進を図っていただけたらと思います。

○山崎生涯学習課長

個別の話となりますが、野市東防災コミュニティセンター、確かに3月末で完成しまして4月1日から供用開始しております。4月1日の段階で公民館長は、決まっていたんですけども、再度、土居、野地東、中ノ村地区ということで、もう1回協議をし直して、6月の末に、公民館長が決まりました。ここから運用していくという形で、今は事業展開というか、通常の地域の活動の場ですから、地域の方々が利用していくためには、今予約は、市がその地域以外の人たちは止めております。原則止めて、市の事業を別にし、どうしてもやらないといけない事業は別ですけども、本来ならば地域が使う場所ですから、地域を優先ということで、各々の総会とか、地域の総会なんかはもう、その場所で、今後敬老会に向けても、こちらで実施するという話も聞いておりますので、徐々に事業展開を進めていくようには考えております。

まちづくり自治会と、市と今後の事業内容については決めていきたいと思っております。

○百田委員

全ての部分において野市集中になってきて、中央公民館の利用者数等とその他の公民館13施設の利用者合計はもっと少ないんじゃないか、そういった意味で公民館が地域の中心にある子どもたちをどうしていくかということも考えながらやっていくにはやはり、まちづくり協議会とのコミュニケーションをとりながら利用率をはかっていくように。また、震災対応を含めて、香南市としてどういったまちづくりをするかという、ランドデザインみたいなものが、今後先こうやっていく、ああやっていく、全てのことに関して、何かあればいいなとは思いますが。

○濱田市長

はい、先ほど亀川委員の中でもありましたけど、やっぱりそこに切っても切れないっていうのがやっぱり事前復興の視点というのがおそろくなければできないんじゃないかなと思ってますので、これまではややそういう事前復興という概念というか、東日本大震災以降、特にね、能登のちょっと前とか熊本、そしてまたそれぐらいからこういう話が具体的に事前復興、まちづくりっていうのが出てきてまだ国なんかも進めつつありますが、実際に集団で移転、高台移転する時の予算的な補助というものもあまり綺麗に確立してなかったり、今ちょっとそれ、国も始めてますけど、こうやりながら進んでいるような状況でありますので。そこに我々は県も今それに合わせて、事前復興計画というのを立てるよという事で進めております。そういったものも、単独でなかなか進められるものじゃないので、やっぱり国、県の動向というか、補助、支援のあり方も含めて、まさしく百田委員のおっしゃいました、ランドデザインっていうかですね、そういったものを考えていくというかそれに、たどり着くように、進めていかなきゃいけないのかなというふうに考えてますが、今はちょっとその過渡期というか、そういう状況じゃないかなと思ってます。

○百田委員

臨時地震情報が出まして、それでまた、今までの想定したことと実際、臨時地震情報が出ての、今

までの対応で、机上でやってるんで、実際やってみると違うところもあると思うんで、その辺も含めて、また公表してどうやっていくとかと、事前復興は別に香南市だけで先に進んで考えることができるんですよ。

○濱田市長

まあ、そこはやはりそのなかなかイメージとして事前復興というのは、どなたにも事前復興という言葉はすごく、分かりやすいですし、必要であるって思うんですけど、やはり実際にとなるときに、どの地域、どの方々とどちらにどのようになってしまうのかとやっぱり、相当な丁寧な話合いというか、そしてまたその例えば本当に何戸単位で、どっかに移動したいとか、もう少し広い範囲で、町内何丁目から、自治会レベルとか本当に様々あると思うしそれぞれ思いが違うところもあるので、一定こう、何て言うのかそれを市主導というのは、やはり相当に困難であるし、やはりその中において、できる限り、地域住民の方々の合意、そしてまたその中で、極力、意見の相違や争いというか、そういうことについての、ハレーションがないような形で、よっしゃみんなで事前復興どうするっていうのをそれぞれが考えられるようなそういう理想になりますけど、そういうことを、どう我々がそういうモチベーションにも持ってもらえるかっていうことがまず、我々がまずやらなければならないことじゃないかなと、いうふうに考えてますので、そこは防災対策課とも話をしていきますし、本当にこれから、これ全庁挙げての話だと思いますが、問題からのご意見というか、お気持ちは、重く伝わっております。ありがとうございます。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

それでは次の議事に移ります。

それでは次の香南市学校等規模適正化等についてということで、まず市長から。

○濱田市長

これも先ほどの2番目の公共施設等マネジメントと同じで、どちらかというこの香南市学校等の規模適正化というもの等についてはですね、当然教育委員会が今進めていただいておりますので、私は都度都度というか、今現状で進めていること全て報告を受け、話は聞いておりますし、どういったご意見があるかは当然目を通しておりますし、そういう話も聞いておりますが、これも先ほどと一緒に、逆に言うと、今度はこっち市長部局が教育委員の皆様のですね、お声というか、お気持ちとかご意見等をお聞きさせていただきたいですし、それはもうこれも個別の話じゃなくて、大きな方向性として、教育委員会でやっぱり取り組んでいただいておりますので、ここは我々、私も、やはり本当に何て言いますか、私自身が市民の皆様に非常に心苦しいのは、やはり、もっと市長の顔が見えないという話も当然多くの方からいただいておりますが、この件につきましてはやはり、教育ということ、学校そしてまた子どもたちへの影響ということを考えますと、私はどうしてももう少しこう、広いといいますか、おつきなというか、全体としての視点でものを見つつ、見がちのところもありますので、やはりこれは専門の立場、そしてまた教育委員の皆様の取組というものを、しっかりと見させていただいておりますのが現状でありますので、そのところは、私からは、これまでどおり丁寧に学校と向き合いながら、市民がその地域の方々、子どもたちにまず、子どもたちにとってということを念頭に置いてやっていただいておりますのは当然であります。これからも引き続き、取り組んでも

raitaiというふうな気持ちで入れさせてもらいましたので、はい。

○北村総務課長

資料の方が出ておりますが、この資料の補足説明をお願いいたします。

○門脇教育次長

学校等の規模適正化につきましては、昨年10月に、学校等の規模適正化等基本方針を策定しまして、その後、各学校等PTA役員会や学校運営協議会、また地区説明会などをしましたけれども、その時点では、具体的な再編例が示されていないことから、基本的な市の考えを示すのみで、市民の方からも深い、個別な意見をいただくような形にはなっていませんでした。

参加された方からは、規模適正化と地震津波対策は別に考えるべきであるとか、津波浸水想定区域内に学校を残して欲しいとか、学校が無くなれば地域が廃れるなどという意見が多く出てきました。

教育委員会では、児童生徒の学習環境の向上のためには、一定人数の規模が望ましいこと、また近いうちに必ず発生すると言われている南海トラフ地震の被害想定を考えた時、津波浸水想定区域内にある施設の子どもの命を守るためには、浸水想定区域外への編成が望ましいと考えていますが、それを行うためには、様々な課題の解決や、地域や保護者の、理解協力を得る必要があります。

そのため、具体的な再編案を検討するに当たって、更に多くの意見をいただきながら進めるべきであると判断をして、この4月から6月にかけて、意見聴取の用紙を配布して、市民の皆さんの理想とする将来の保幼小中の在り方についてということでご意見をいただきました。

それが、お配りをしている資料になりますが、合計173人の方から206件の意見をいただいております。お一人で複数の項目について記載している場合は、それぞれ1件としてカウントをしております。いただいたご意見等は、規模、校区、津波対策、その他に分類して、統一意見は集約して意見が多いものから順に並べて、市のホームページに公開をしております。ただし、現在の学校等に対する要望など、規模適正化以外の意見もありましたので、そういったものについては掲載をしておりません。

いただいた意見は、資料の2-1となっておりますが、ホームページに掲載しているものは、同一意見は集約をして、地域をまとめて掲載をしていましたが、本日お配りしたものは、地域ごとに集約をしたものになります。

また資料2-2は、これらの意見を地区別や、所属別に数字を集計したものとなっております。現在の取組としましては、これらの意見や、今までにいただいた意見などを踏まえて、どのような再編案をお示しするのか、提案いただいた案は実現可能か、課題は何かなど、教育委員会事務局や庁内の関係課長等で組織する検討会議等にて、どういった案を作ったらいいのかという検討を進めているところです。

今後のスケジュールにつきましては、資料2-3のように計画をしております。年内にはホームページ等を通じて、複数の再編案をお示しし、そして年明けからそれらをたたき台にして、地域や団体保護者等と、どういった姿が望ましいのか、検討を重ねていきたいと考えております。

南海トラフ地震発生のことを考えると、時間的余裕もあまりありませんが、子どもたちにとって最善の形となるように、地域や保護者の方と話し合いを重ねていながら、取組を進めていこうとしているところです。

説明は以上です。

○北村総務課長

この意見等はホームページで出ちゅうやつとはまた違う。

○門脇教育次長

並びを変えています。

○北村総務課長

並びを変えちゅう。

ありがとうございました。

委員の皆様の方からご意見等をいただきたいと思います。

ございませんでしょうか。

○亀川委員

まずですね一つは、地震津波に対するやっぱり心配、保護者の心配っていうのは非常に強く、そして数も多く出ているということで、やっぱり規模適正化とそれから津波地震等分けて考えるべきっていう、そういうご意見もあるんですけど、もう、やっぱりこれはなかなか分けて考えることは難しいなど。やっぱり津波地震ということをやっぱり、核にしてっていうか、香南市の場合はその上での規模適正化っていう捉え方をせざるをえないのかな。

そう考えたときには、やっぱりかなりスピード感を持って、早い段階で、校区の見直しだとかっていうのを進めていきながら、もう一つはやっぱり事前復興の中で、新しい学校を高台にっていうようなことが可能なのかどうかっていうようなところも踏まえて、やっぱり二段階ぐらい、すごく早い校区の見直しと、それから将来的にどうするのかっていう、そこら辺のところを分けて考えざるをえないのかなっていうようなところが一つと、それから逆にもっと早く、保育所の、定員の見直しだとか、それから浸水区域に通わせている子どもさんを通わせている保護者の方から、そこを何とか許可してもらえないのかというような意見なんかについては、もっと早い、早く、規模適正化の動向と分けて、結論を出していくっていうことも必要なのかなっていうふうに感じました。

○門脇教育次長

教育委員会としましても、もちろん規模適正化という名前が付いてはいますが、津波浸水想定、防災の観点は外すのは、やはり現実的には難しいなど考えていますので、今の臨時情報のこともありますし、緊張感を持って進めていきたいと考えております。やはりでも丁寧な説明は必要だと思いますので、一方的なことにはならないように配慮しながらも、スピード感を持って、少なくとも体制的には整えながら臨んでいきたいとは考えております。

また校区の見直しというか校区外申請のようなことにつきましても、やはり一定の要望が出ている以上は、検討を進めていかなければならないと考えています。

○北村総務課長

他にどうぞ。

○森本委員

アンケートの結果を見させていただいて、まずとりあえず、意見をたくさんの人にお聞きするという事で、もちろん具体的な話とかまだ決まっておらず、そこに対して何も詳細がないのに、分からないみたいなご意見もたくさんあるかと思うんですけども、それ1回目なのではないかと思うんですけども、ここの中で見て取れるような、大体保護者の方、地域の方は地域がちっちゃくなっていくから心配だっという方のご意見が多くて、それはそうだと思います。保護者の方、お子さん目線で言うと、割と、もう説明されたことに対しては、しょうがない、納得はできる、ただ、心配されているのが、そのあとの具体的な、移動ですよ。香南市広いので。そこで先ほどの2番にも関係すると思うんですけども、公共マネジメントでも、何もなしでこう聞かれると、こう答えられないんですよ。やっぱり一番心配なのは移動ってことだと思うので、2番の公共マネジメントで言うと、多分高齢者の方が利用されている、でも無くなったらじゃあ私たちも、ふれあいセンターまで遠いし、もう何も無くなっちゃうとか心配している方がいらっしゃると思うのでたくさん。学校も、保護者の方はやっぱりスクールバス。じゃあ移動はどうなるんだっという、やっぱり、具体的な話を今からするのはまだ早いのかもしれませんけれども、そういった話がないと、なかなかこう気持ちが前に向いていかないのかなと思いました。

また次のアンケートなり、資料の時にはそういったお話をちょっと具体的に提示していただくとわかりやすいかと思います。

○門脇教育次長

資料の作成につきましては、この前の説明会の時にも、うちの方も十分説明ができるような体制でもなかったですし、資料不足っていうのはよく言われてましたので、ちょっと業者さんに資料を分かりやすい資料作成をするに当たって支援をしていただいて、いただいたような、スクールバスのことであつたりとか、知りたい情報になるべく分かりやすいものを作っていきたいと思っております。

○北村総務課長

はい、ありがとうございます。

他に。

○百田委員

アンケート、それから、いろんなところでも聞き取りとか説明会等で幅広い意見、十分ではないですけど、いただいている。多くの方の意見をいただくと多面的に、いろんな意見が出てきておまして、当初の規模と配置をどうするか、通学をどうするかということ以外に財政的な問題とまちづくりとをどうするかという話も出てますんで、再度しっかり整理してやっていただければと思います。

あと、愚者は体験に学ぶじゃないですけども、私は徳王子小学校ですね、もう今は形も何もありません。ちょうど50年前に香我美小学校が統廃合をした時、当時の教育委員がまだおりますので、聞いたところ、二つに絞る、一つにする。けど、岸本は香我美町の中心になるくらい発展するからもう、岸本小学校は絶対、岸本小学校のままでいくと。岸本小学校と香我美小学校でそうなった時に、岸本小学校に近い徳王子の人なんかは、岸本小学校行きたいという、いろいろなことがあって、バスを走らす。本来なら4キロ以内が歩きのところを、2キロ以内を歩きにして、スクールバスをまわしたということを聞いております。それもいろいろあります。

あと、香我美中学校。前身が大忍中学校、あの頃は香宗、富家と香我美町で、そういった経緯もあ

り、校区も別れて今の状態になってということで。そんな、歴史もありながらのことを踏まえて、今出ているような意見の中で、どうしていいか。徳王子も、小学校が50年前に無くなりまして、何とか公民館活動やっておりますし、山南も山北も西川も、文化伝統もしっかりまちづくりが頑張ってやってくれてますんで、いろんな心配が出てくるとは思いますが、いつ市長が前に出てきてくれるのかなあと、思いつつ、もう最後は、「自らかえりみてなおくんば、千万人といえども我いかん」で腹くくってやっていただければと思います。よろしくお願いします。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次の議事に移らせていただきます。

市長、説明をお願いします。

○濱田市長

それでは私からですね、今回食育についてということでお話をさせていただきます。資料、新聞記事があるんで、もう読んでいただいた方もおられるかと思いますが、先週の8月8日に、大阪府の泉大津市という市の市長さんに来ていただきまして、香南市と泉大津市で農業の連携協定というのを結びました。

このおっきなその内容としましては、泉大津市大阪府にありますけど、その14平方キロで7万5,6千人の街ということで、そのうちの農地が2%しかないということで、ほぼほぼ、農業のない町だということで、そこの市長さんが、今、今年なんか米不足になっておったりする、この食というものに非常に関心があり、大切にし、そしてまた、危機感というものもありまして、今、泉大津市内では、学校給食で特別栽培米かそれ以上の有機米という農薬を少なくした米を使って提供しておるといことで、それを、いわゆる一般の卸しから買うのではなくて、直接、目の見える、目と目、そしてまた、話し合える自治体同士で、そのやりとりができないかという話を昨年私受けまして、香南市は幸いにも、農業公社が現在、学校給食ご承知のとおり、全ての米を作っておりますし、もちろん全部で21ヘクタール、農業公社が作ってるうちの、13ヘクタールが学校給食、その残りはまだ余力がありましたので、その部分を特別栽培米にできないものかということで、農業公社と話しまして、無事、この4月に植えた米が、この7月末から取れまして、特別栽培米という米ができました。

それをこれからですね、泉大津市に販売をする直接市同士で、売り買いをするということ始めました。これ始めまして、実際に特別栽培米というのはいわゆる減農薬米といいまして、ざっくり言うと通常の米の半分の農薬で作る米なんですけど、それをせっかくチャレンジをして作る一定の栽培ができましたので、これから来年の作付けから、今現在13ヘクタール香南市内用に作ってる米も、全てを減農薬米で作ろうというふうに、市減農薬米を香南市の給食に使おうというふうに考えております。それに向けて今準備をこれから、来年産に向けて始めます。

それにつきまして、そういうこの特別栽培米という農薬の半分になった米を使うっていうことも含めて、これからのこの2番目のポツになるんですけど、せっかくよりよいとされる米を、子どもたちに提供するに当たって、やはり今、大きな課題の一つが残食が多いというふうに聞いておりまして、それをいかに減らしていけるのか。せっかくいいものを作って提供しても食べてもらわないと、その効果が出ないというか、意味がないわけであって、特に近年、やはりパン食なんかが多くなってる中において、子どもたちの米離れみたいなのが進んでおるといふふうに聞いておりますので、極力そう

いった残食というものを減らしていきたいということで、学校サイドに、その取組について、現状どのようになっておるかということをおね、聞かせていただきたいし、それを教育委員の皆様とですね、共有できればなと思いますので、このテーマを挙げさせていただきました。

○北村総務課長

それでは給食センターかまいませんか。

○小松学校教育課長

学校の取組、給食センターの方でも残食を減らす献立の工夫は、栄養士さんを中心にやっていたところですけども、学校の取組に関しましては、担任はもとより、栄養教諭の方が訪問を学校のほうにしてくれます。その際に栄養バランス必要な栄養価の指導を含め、できるだけ残さず食べるよう、言葉がけとかをしてくれています。

また放送なんかを通して、お昼の放送でそういうことを伝えたりはしています。

また最初の配膳の時点で、食缶に残らないように配膳し、その後減量したい子どもが食缶に戻す。少し食べれる子は追加で増量するというようなことで対応していることがあります。個別におかわりできる子どもに呼びかけて残食を減らすようにしておりますが、ある学校は6年生が総合的な学習の時間に、SDGsをテーマに学習をしていますので、食品ロスを減らすという観点から、残食ゼロコンクールというのを学校で取り組んで、全校に呼びかけて実施したというような事案もあります。

また小学校1年の給食の様子を、保育所の旧の担任に見に来ていただいて、それに食べれる量というのを引き継ぎをしたことから、この子はもう少し食べる、最初は分からないので食べる量というのを無理を課さないようにしてただけですけども、引き継ぎ後、配膳量を増やしていったというようなことがあります。

学校によっては子どもはしっかりと食べられるので、残食がほとんどない小学校もあります。中学校の方は担任と栄養教諭の方が訪問する際に栄養バランスについて話をしてくれています。月間の残食量をデータ化し、グラフ化して教員生徒にフィードバックしています。

また牛乳の飲み残しも結構あるけれども、その飲み残した分を生徒が集めていくというような、ちょっとやり方を工夫して変えたら、牛乳の残食が減ったというような回収の区分というか、それによって残食を少なくした実績もあります。そのように残食に向けていろいろ取組をしていますが、子ども各自、自分にとって食べる量に差があるということもあります。ということと、あと偏食傾向が上がっているというような話も聞いています。データはないんですけども残食多くなってきてるってことは、好き嫌いで残してるんじゃないのかという声も聞かれます。

そのようなところですね。

○濱田市長

いいですか。

あとその給食の時間というのはどれぐらいあるでしょうか。

○小松学校教育課長

小学校の方では準備も含めて、40分ぐらい取ってます。中学校の方は25分から30分ぐらいです。

これやっぱある程度時間が足りなくて食べれなくなっちゃう。その時はちょっと考慮して、時間押してって言うたら考えないかところですが、先程も言いましたように、なかなかこう、小学生の子ども各自、自分にとって食べれる量とか体格とかがあって、食べきれないので時間がないというような子もいます。

○濱田市長

はい。よろしいでしょうか。

やっぱり時々お聞きするのは4時間目が体育であったりしたときに、やっぱり、着替え等があって、その給食の時間に食い込んでしまってですね、結局食べる時間が実質ほぼないというか、非常に短くなるなんて話も、時々。やっぱり、ある一定時間がないと、当然ね、早く食べる子もおるでしょうけど、時間なくて食べれないっていうのがやっぱり一番。

好き嫌いもうアレルギーも含めて、やや仕方ないというか、それを、無理やり昔のように食べるというのは言えないんですけど、やはり最低限の時間というのを確保してあげるっていうことは、やっぱりその食べる可能性が増える、一番おつきなことじゃないかなと思うので、そういうところをこれから、先ほど学校教育課長から話、また学校によって割と違う部分があるので、それをもっと学校教育課含めて全市内の学校で共有するというか、それぞれいい取組というのは、お互い参考にさせていただいて、極力食べる時間の確保に努めてもらえたらなというふうには思いますが、どうでしょう。

○小松学校教育課長

また時間の確保は、給食終わって、昼休みっていう形が多いと思うので、そこ臨機応変、時間を確保するっていうことは大事なことだと思いますので、そこは各校声かけまして、またいい取組は共有します。

あと食育だよりを保幼小中食育推進運営委員会に作成してもらってますので、そういうところで紹介をしてもらおうとか、広報的にも進めていきたいと思います。

○濱田市長

はい。

やっぱりいいものを食べてもらいたいですし、特に冒頭のお話をさせていただきましたいろんな意味において今、経済のこの物価高っていうのは、様々影響があります。食事、特にやっぱり食事の材料食べ物の値段が高騰しており、材料もそう、野菜も値段上がっても、その生産者にだということは別として、全体に他のお金が上がってる中で、唯一と言ったらおかしいですが、もう安定的に栄養とその食事を確保できるというのはやっぱ学校給食ですから。そこがやはりしっかりと食べてもらう。それぞれのご家庭で苦しい状況の中で、これまで、家の夕食で6品、7品食べれたのが、やっぱこの物価高で例えば3品になる2品になるとかいうね、極端かもしれませんがそんなことだってあるかもしれないし、米不足で、米が手に入らなかってご飯の量が少なくなったりする可能性もあるわけであって、その中で我々が担保できるっていうのは、学校給食をよりよいものにして、しっかりと食べてもらうというか、食べさすというか、それがやはり我々にできる、できるというかやらなければならないことだというそういう認識を持って、教委そして、給食センターも当然持ってやってると思いますが、そこはもう一度、念頭に置いて、やってもらえたらなと思います。

○北村総務課長

それでは委員さんの方からご意見等いただけたらと思いますが、どうでしょうか。

○森本委員

市長が今おっしゃったみたいに、給食っていうのは、学校生活、普通に子どもの生活の中で、大きなところだと思うので、残飯っていうところですね、もう先生方もすごく工夫なさって、この中で作らなきゃいけないから、牛乳のカロリーが高いのもあって、牛乳と何々っていうふうになってると思うんですけども、やっぱりおいしいもの、おいしいものを工夫したもの、子どもたちに食べさせたいと思ってある程度の予算というのが必要かと思いますので、この経済でね、いろんなものが値上がりしてる中、保護者さんに、値上がりをこうね、言いたくないとか、もうそういうのもありますけれども、でも子ども、親の気持ちとしては、おいしいもの食べさせていたきてる、それがこれぐらい上がりますよっていうので、理解するところもたくさんの方が理解していただけたらと思うので、その辺も併せて、また考えていっていただければと思います。

○北村総務課長

他に、ご意見等ございませんでしょうか。

○亀川委員

質問なんですけども、その特別栽培米にすることによって、今の経費と比べて、どの程度プラス高くなるのかってそれが他の給食の食材の仕入れなんかに影響して質が低下するとなると、子どもたちもがっかりだろうし、そこら辺の見通しなんかは。

○濱田市長

それはですね、まだ詳細には出ておりませんが当然上がる可能性はあります。実は技術的に言うと手間かかるんですけど、逆に言うと、農薬の量半分になるわけですから、その分の農薬代は半分になるという風な考え方もあってですね、まだちょっと全てが出てませんが、そう当然上がる可能性もあります。しかし、そこはですね、その部分はもう極力ですね給食費に値上げという形にしないように、やるつもりでやっております。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

そしたらですね、準備しておりました記事につきましては、全て終わりました。

その他ということで、この際ございましたら、お願いをいたします。

○濱田市長

はい。いいですか。

私がちょっとこの夏ですね、やはり暑さということで、今先ほどの百田委員の話もありましたけど、実際今お盆のシーズンで部活動等はやってませんが、特に、体育館を使用するスポーツはですね、文化系のクラブとなると、エアコン等施設でできますけれども、バレーボールだったりバスケットボールであったり、卓球部もそう、非常に本当に、厳しい環境下でやられておりますがそこんこ

ろなんかこう、各学校からですね、対策というかそういうのっていうのは、その問題点なんていうのは、学教の方に上がってないですか。

○小松学校教育課長

それぞれの学校でもう、時間帯を考えたり、休憩を入れることについては、やってくれてると思いますが、本当に大変だと思います。異常な暑さになってますので、やっぱり体育館のそれこそ防災とも関連しても、空調とか冷房を入れるというようなことになってきたら、大分学校も助かるし、ということになると思うんですね。調査として今年予算立てをして、体育館の規模によってどれぐらいお金かかるかってことも調べてる段階ですけれども、安芸なんかはポンと入れたので。

○濱田市長

中学校がもう新しくなりましたので、もう本当に快適だという。

○小松学校教育課長

そしたら今回この緊急地震が出たときに、あそこが避難所となって子どもたちを入れられるとか決められるというようなところでやっぱそういうところにつながるなと思っておるところです。

○濱田市長

やはり私も自分の体験上そうです。スポーツやってましたし。今もやってるんで、あれですけど。子どもたちも当然暑い中やるっていうのが、もう暑い中でもやりたいと、それがこうなんていうのかな、逆に言うと、その中でやる子どもたちって不思議なもので苦しい環境化っていうのを、大人やったら、やめたい休みたい、逃げたいんだけど、子どもたちはそれをバネにして頑張ってしまうところがあるし、それ監督たちもそうだと思うんです。部活の顧問、熱心な人ほど。だから逆に言うとそれを止められるというのは学校の校長であったり、学教であったり、私もその一人かもしれませんが、そういう意味において、一定本当に何て言うのか、無理を極力しないようにすることっていうのは、嫌われても我々の仕事じゃないかなと私は思ってるので、そこのところは、現場の声は大切にしながらも、一定どっかの段階で、もう本当に厳しいことにしたり、報告が上がったら、大胆に取り組んでもらいたいと思いますので、そこはちょっとお願いっていうか、そういうことを私は考えております。

○小松学校教育課長

昨年度は香南市でも熱中症のガイドラインを作成しました。なお今年、高知県の方からもガイドラインができて、さらに香南市のガイドラインに付け加えながら早くから取り組んでいるところです。子どもの命を第一優先に考えて対応していきたいと思います。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

そしたら、以上をもちまして、香南市総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。